

東寺井	石塚	千人塚	浮盃	西揚	為重	福田	山領
観音堂	千人塚	千人塚	観音堂	大師堂	観音堂	竜頭観世音	観音堂
不詳	享保六年九月	享保六年九月	不詳	昭和二十七年六月二十五日	〃	不詳	不詳
以前は上海路の小路で豆祇園が行われていたが現在は部落で祇園が行われている	往昔斬罪の地で数千人におよんだという説がある	石碑の表面には莫謂西方遠、南無阿弥陀仏三界萬靈等、唯須千念心とあり、裏面には享保六歲次辛丑九月十五日、本願施主圓達とある、享保年間大饑饉の際多数の人が餓死したので霊を弔慰するために建てられたといわれ、また	一名子宝観音とも呼ばれ毎月一回礼拝が行われている 毎年八月十日女子で豆祇園が行われている 毎年九月初に部落の法供養が行われている	火葬場の跡のため、仏の供養と部落繁栄のため修行大師を祀ってある、毎年四月の第一か第二日曜日に法要が行われている	旧為重公民館跡にあり、毎月十七日婦人会でお茶講が行われている	野中石油店裏にあり、毎年旧七月二十八日夜子供の豆祇園祭が行われている	蒲原静美さんの敷地内にあり、毎年七月十八日祇園祭が行われている

二 神 道

(一) 概 要

神道は日本民族固有の宗教であり、神社の祭を中心として発達して来ており、地方によって多少色彩を異にし、ながら、部落や町内や同族の年中行事として何処にも行われており、親族縁者の親睦の機会にもなっている。

この現象は神道が国教の如く行われていた時代の名残とみるべきではなく、共同社会生活に結びついた神道の性格を示すものである。

神道には外来要素を混えているが民族的で、『日本書紀』の用明記に「天皇仏法を信じ、神道を尊びたもう」とあり、用明天皇の時代は欽明天皇十三年（五五二）に仏教が伝来し、これが古来の民族的宗教と対抗して漸くその地歩を築いたばかりの時代で、仏教の伝来によつてはじめて古来の民族的宗教に反省が加わり、神道なる名称が与えられた。

神道はまた惟神かんがとも古道とも呼ばれ、その内容は、わが古代宗教の全てであった。

日本の神は大部分人格的に把握された八百万の神祇より成る多神教を構成している。

日本人が自然を人格化して把握していることは現在の神社の祭神を検討しても知りうるが、自然神の外に氏神

概

要

や産土神うぶすまとがある。氏神には何らかの神を守護神としたものもあるが祖先神であることも多かった。産土は土地に固着する地縁神で、上代の土地神によるものらしい。

雑多な民族的宗教が神道乃至古道として反省される頃には、それは国家的宗教として統一されて来たが、わけでも大宝令では神祇行政が統一され、主要な神社の祭も国家が行い、地方の神社では共同体中心に尊崇が行われてきた。

神道思想的に何よりも重要なことは仏教と神道とが思想的に習合する動きをみせることで、本地垂迹説がこれで、盛んになるのは平安朝中期以降である。神道と仏教との実際の連絡は徳川末期まで続くが、思想上では徳川時代になると儒学の勃興につれて神道は儒教と習合し、儒家神道を起す。けれども一方では古典の研究から一切の外来思想を排して古の真の姿の神道を明らかにせんとする国学者達の復古神道が勢力をもってくる、これが現在まで最も力をもっている神道思想である。

明治以降は廃仏と政府の保護により神社神道は国家的機関となつて宗教以上のものとして取扱われたが、終戦後国家の保護を離れて神社本庁の総括する宗教学法人令の適用を受けることになった。

(二) 各神社の概観

大堂神社(大堂村)

一 祭 神 事代主神、大山祇命、豊玉姫命、三女神、平将門

二 創設年代 後宇多天皇御宇弘安二年(一二七九)

三 沿革 革

当社は人皇第九十一代後宇多天皇の御宇肥前の太守小田祐光は夢に老翁の弓箭を手にし告げて、吾はこの地鎮守の神、故に国土を衛護し万民を鎮護すること久しと、その声雷の如く驚きさめて室外を見れば白羽の矢がありこれを納め、その部下諸富修理太夫も同じ霊夢をみたので兩人相談して太宰少貳政祐にきいたところ政祐も同じ夢をみたので、これは正しく神勅であるとし、社殿を建てこれを祭り大堂六所大明神と称した。時に弘安二年十一月二十九日で社田五十三町余を拝領した。

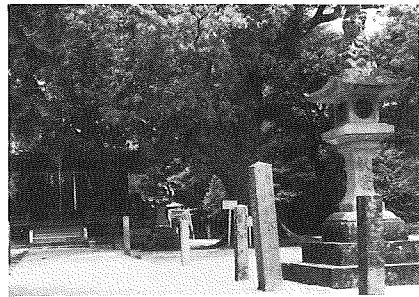
鍋島日峰公蓮池に居城し氏神として敬信し寛永五年(一六二三)現在地に社殿を建立した。これが今の大堂神社である。

明治四年二月十五日村社に列せられ、大正七年八月二日郷社に昇格した。

明治三十九年四月神饌幣帛料供進指定

四 宝 物

銅造明神鳥居は昭和四十六年六月二十三日県重要文化財に指定、この鳥居は県内に残存する唯一の銅造製で、寛永十四年(一六三七)から十五年にかけての島原の乱に出陣した元茂が、かの産土神である当社に戦勝を祈願していたので、その祈願成就に寛永十七年二月十五日小城藩第一代藩主鍋島紀伊守元茂三十九歳のときに建立し



大堂神社

たものである。

その外絵画、石造物の狛犬、唐獅子等がある。

五 その他

1 境内社、櫻森稻荷社、敵島神社

2 例祭、春祭 四月二十九日 秋祭 十月二十九日 祈年祭 二月十七日

六 神 職 石丸定文

太田神社（太田）

一 祭 神 事代主神、大山祇命、応神天皇

二 創設年代 天文十四年（一五四五）

三 沿革

当社は太田美濃守藤原資元（浄泉）の創建で大堂六所宮の神霊を分祀し、太田の姓をとり太田神社と称した。

毎年十月には祭礼用として白米式石を供進された。後年太田氏が鍋島氏に属し本藩の国家老として佐嘉城へ居を移された後もあつく尊崇され神殿の修理費等寄進されたといわれている。

明治九年九月二十日村社に列せられ、明治四十五年一月二十五日神饌幣帛料供進指定された。現在五年に一回



太田神社

十月十九日大祭が行われている。

四 宝 物 肥前狛犬一对の石造物

五 神 職 石丸定文 代務

新北神社（三重）

一 祭 神

主祭神 素盞鳴尊

配祀祭神 倉稻魂命、大山昨命、天照大神、市杵島神、武甕槌命、仁徳

天皇、三女神、十城別命、岡象女神、綿津見命、鍋島勝茂（無格社合祀

による）

二 創設年代 用明天皇御宇（五八六）

三 沿革

当社は人皇三十一代用明天皇の御宇創建されたといわれ、五十二代嵯峨天皇（八一〇―八二二）の御宇御勅使三条大納言郷が再建された。

川副三郷の崇廟神で藩主代々の崇敬の神社で、藩主光茂は万治三年（一六六〇）八幡宮、淀姫社、妙見社を、寛文七年（一六六七）大堂六所社を宝殿内に祭り相殿とされたが、維新の時八幡宮、妙見社、大堂六所社は仏体であるということ三重の円城寺に移された。



新北神社

維新前までは大祭の時は藩主より費用が出されていた。
明治二年氏子調では三、二五七戸であったが、明治四年十二月郷社に列せられ氏子は八〇〇余戸に減ぜられた。
当社のある所を古は三重村新北ヶ里といわれていたので新北を社号としたと伝えられている。
明治四十三年十月十三日神饌幣帛料供進指定

四 宝 物

天狗面二枚

裏面に宝淋院澄尊元龜三年（一五七二）壬申九月吉祥日作者等元

刀一口

奉宝納新北大明神御剣元和十年（一六二四）甲子二月彼岸内田織部少輔平忠正の作

短刀一口

奉喜進、新北宮御宝前、御宝劔之事、願主伊勢守平貞次敬白、文録元年（一五九二）丙申八月一日

額一面

文久二年（一八六二）鍋島撰津守真與殿其書を刻み之を奉納す。

刻者 小城牛尾山藏坊梅峠

その他石造物狛犬等多数ある。

五 その他

1 境内社、八坂神社、稻荷神社、大神宮、宮地嶽三柱神社、淀姫社

2 例祭、春祭 四月十九日 秋祭 十月十八日、十九日 祈念祭 二月二十一日

六 神 職 川浪英明
県重要無形文化財「三重の獅子舞」は秋の祭典に奉納されている。

1 その他関係神社

西ノ宮社（北川副角町）

一 祭 神 蛭子尊 大己貴尊 事代主尊

二 創設年代 承安二年（一一七二）

三 沿革 革

人皇第七十八代二条院の御宇、信濃国伊那郡の土本田大和守昭雲という者、保元平治の乱に亡命し、同年五月肥前国杵島郡山口に住していたが、かねて摂津国西ノ宮を崇敬し、靈夢の神意に従い、佐賀郡川副莊、角町治部の邸宅を開き、一社を建立し、承安二年（一一七二）九月一日奉祀して西ノ宮大明神と称し、天下泰平国家安全を祈願した。



西ノ宮社

後竜造寺家深くこれを崇敬して神田等を寄進した。その後鍋島家領主となり、また崇敬篤く、慶長九年（一六〇四）社殿を改築、寛文二年（一六六二）十月二十六日付で社領として二十三町八畝、この地米二千八百八十二石の供進がなされ、領主をはじめ村民の崇敬深く、明治六年二月五日村社に列せられ、明治四十年二月十五日神

橋津		加与丁	陣の内	部落名	沿革・由来・行事等
名	称	創設年代	沿革・由来・行事等		
八大竜王	野田の恵比須さん	天保年間七月 吉辰	昭和五年再建	部落の東入口にあり通称やこうさんといわれ、春秋二回祭りが行われている。また七月十八日にはぎおんが行われている	
八大竜王	野田の恵比須さん	天保年間七月 吉辰	昭和五年再建	部落の東入口にあり通称やこうさんといわれ、春秋二回祭りが行われている。また七月十八日にはぎおんが行われている	
八大竜王	野田の恵比須さん	天保年間七月 吉辰	昭和五年再建	部落の東入口にあり通称やこうさんといわれ、春秋二回祭りが行われている。また七月十八日にはぎおんが行われている	

(四) 部落別社祠一覽

その他八大竜王、弁財天、権現、乙宮、八竜神、矢房宮、七郎、九郎神等の石祠等も各神社に合祀された。
佐賀市光法角町西ノ宮社には本町関係では新北山王社、同天神社、同天満神社他四社等が明治四十一年十月合祀されている。

饗幣帛料供進指定された。

本町関係の新北山王社、同天神社、同天満神社他四社が合祀され、大字山領地区が氏子となった。

四 神 職 牟田口英治

(三) 無格社合祀神社

大堂神社

陣の内、若王子神社、明治四十三年六月十二日合祀、昭和五年元の位置に社殿を建て分祀。大堂村分、若宮社。大堂剛津分、海道社。光増津分、天神社、八ノ宮社、矢房社。大堂本津分、天神社、天人社等は明治四十二年五月二日合祀。大堂新津分、天神社。大堂剛津分、厳島社。小田、天神社。北橋津、天神社等は明治四十二年五月十日合祀。

太田神社

太田、諏訪社、天神宮、竜王社。土師、天神社等は明治四十二年合祀。

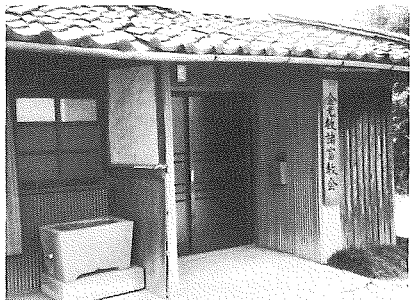
新北神社

下大津、徳富本村、徳富城内、上大津等の天満神社。橋津、徳富外新地、徳富元新地の厳島神社等は明治四十四年三月十七日合祀。

	三 重				小 杭	福 田					
八坂神社 (祇園社)	天 神	小 天 神	下 の 宮	植木天神	白石大明神	志々喜神社	稲荷神社	〃	〃	恵比須さん	大神宮
明治十一年	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	不詳
素盞鳴尊を祀っており、京都の八坂神社にならい創建されたといわれている	天神林にあり、大正時代までは祭典が行われ、子供達の相撲があり、餅をつけて子供達に配っていた	不詳	新北神社の分神で、大正時代までお下りがあり祭典が行われていた	昔は弓をひいて祭典を行っていた	神宮皇后三韓征伐の際のはら帯石三個と武内宿弥を祀つてあるといわれ、安産の神さんとして信仰されている	毎年七月十三日福田区北隣保班で祭典が行われている	毎年七月八日部落で祭典が行われている	毎年七月二十日水町区の東西隣保班で子供達により祇園祭が行われている	毎年一月二十日部落で二十日祭が行われている	毎年一月二十日西区で恵比須祭が行われている	毎年一月十五日東区中区で大神宮祭が行われている

山 領	大 中 島	諸 富 三 区	諸 富 一 区		下 大 津	徳 富 一 区	
天満神社	辨 財 天	天 満 宮	蛭 子 さん	八 大 竜 王 社	六 所 大 明 神	大 神 宮	八 大 竜 王 辨 財 天
天保年間	寛政元年四月	不 詳	文 政 二 年 九 月	文 政 二 年 九 月	文 政 二 年 九 月	〃	明 治 初 期
部落の北中央部にあり毎年部落で四月二十日、十月二十日祭典が行われている	供日等が行われている	島東北部にあり、部落の神様として信仰されている。建立は詳びらかでないが鳥居に寛政元年四月吉詳日と記されているので、その時代の建立ではないかと言われている。正月行事としては隣保班代表で無病息災の祈願。二月十一日は百々手祭、家内安全を祈願。十月十九日は供日等が行われている	諸富津の商売繁昌を祈念して創建された六所大明神と同日行われている	海神として海上の安全と水難の護りを祈念して創建された六所大明神と同日行われている	大堂神社の下宮で毎年八月四日一区の小中学生の男子を中心としてお祭りが行われている	部落の厄払祈願、以前は部落の行事として行われていたが、現在は老人会で毎年二月百々手祭が行われている	坪垣小路、野村小路にあり昭和三十四年堤防工事により現在地に移転、子供の水難除け、無病息災を祈願。毎年八月一日坪垣小路、野村小路の子供達で竜王、辨財天祭を行っている。

天理王命とはクニトコタチ、クニサツチ、オオヒルメ、ツキヨミなど男女五組十住の神の総称といわれる。教義は日本神話に仏教説話、進化論などが混交し、性的関心の投影した独特の人類説話をもっている。



金光教諸富教会



天理教筑後川分教会

天理教の教祖は^{やまと}大和の地主の主婦中山ミキが家族の不幸に悩んで一八三八年、天理王命の神がかりとなった。明治末期に一教団として発展した。祭神は「この世をはじめた元の神、実の神」として天理王命を祭り一九〇八年教派神道として公認されるに及んで随順と奉仕を説いた。本部は奈良県天理市にある。

創設 昭和四十三年

教会長 田中秋蔵

天理教筑後川分教会（石塚）

開設 昭和三十三年

教会長 池本シツエ

幕末の変動期の人心の不安のなかで農民の間に生れた教派神道一派である。教祖の川手文治郎（一八一四—一八八三）は岡山県金光町の農家に生れたが、この地にあった^{こんがら}金神を世人がそのたたりを恐れて放置されていたのを、逆に慈悲深い神として信仰し、みずから^{いまがな}生神金光大神と称したことに始まる。一八八五年教会を組織し、一九〇〇年教派神道一派として公認された。金光町に本部教庁がある。

(五) 教派神道

金光教諸富教会（福田）

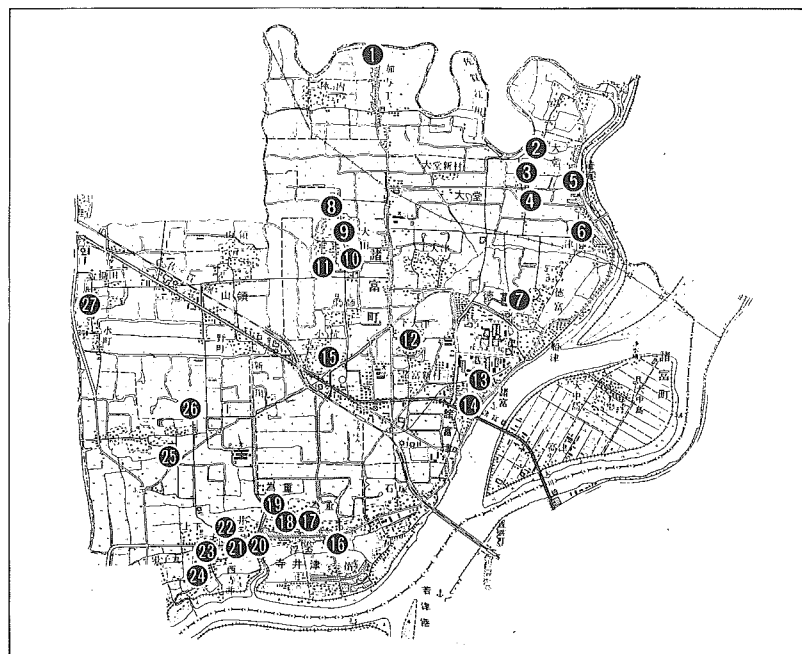
上大津	西寺井		天照皇大神 八大竜王 住吉大明神	不詳	堤防外三崎鉄工所敷地内にあり、商売繁昌、航海安全を祈り、三体を合祀している。毎年四月には神主を招いて祭典を行っている
権現さん	お地蔵さん 若宮さん	恵比須さん	大正年間再建	不詳	堤、北村魚屋角毎年七月には婦人で豆祇園が行われる 堤西、実松の工場前にあり、妊婦が腹当を新調し、地藏さんに着せて安産を祈り、七月下旬、八月下旬に豆祇園が行われる 部落公民館前にあり、八月第一日曜日小中学生で盆踊りを行う、天皇誕生日に老人会・婦人会を招き神主をよび、祭典を行っている
不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳

人物



慰 靈 祭 (昭和31年・大堂神社)

諸 富 町 社 寺 分 布 図



社 寺 名

- | | | | |
|---|-----------------|---|---------------|
| ① | 明 円 寺 加 与 丁 | ⑮ | 專 念 寺 小 杭 |
| ② | 教 樂 寺 大 堂 村 | ⑯ | 勝 浮 院 浮 盃 |
| ③ | 永 仁 寺 〃 〃 | ⑰ | 妙 光 寺 為 重 |
| ④ | 大 堂 神 社 〃 〃 | ⑱ | 昌 善 寺 祈 禱 所 〃 |
| ⑤ | 礼 教 寺 大 堂 津 | ⑲ | 多 聞 院 〃 〃 |
| ⑥ | 法 泉 寺 大 橋 津 | ⑳ | 光 專 寺 東 寺 井 |
| ⑦ | 西 田 神 社 德 富 二 区 | ㉑ | 万 福 寺 〃 〃 |
| ⑧ | 太 田 神 社 太 田 | ㉒ | 安 竜 寺 西 寺 井 |
| ⑨ | 慈 広 寺 〃 〃 | ㉓ | 光 德 寺 〃 〃 |
| ⑩ | 宝 光 院 〃 〃 | ㉔ | 妙 誓 寺 〃 〃 |
| ⑪ | 西 光 蓮 寺 〃 〃 | ㉕ | 円 城 寺 三 重 |
| ⑫ | 東 光 寺 下 大 津 | ㉖ | 新 北 神 社 〃 〃 |
| ⑬ | 蓮 光 寺 諸 富 津 | ㉗ | 円 光 院 福 田 |
| ⑭ | 正 立 寺 〃 | | |